

# 審判員派遣報告書

派遣事業名	令和5年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会	派遣期日	令和5年7月25日～26日
報告者	大西 空	派遣先	北海道札幌市

## 1 大会概要

大会名称	令和5年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会	大会期間	令和5年7月25日～30日
大会概要	各県代表によるトーナメント		

## 2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和5年7月25日	会場	北エール
審判クルー	CC: 前田隼大氏（鹿児島） U1:大西空（香川） U2:荒木晋之氏（北海道）		
担当試合	駒沢大学付属苫小牧（北海道） VS 県立美来工科（沖縄）		
試合内容	未来工科の勝利。		

日程	令和5年7月26日	会場	北エール
審判クルー	CC: 鈴木悟氏（北海道） U1:長谷川雄是氏（北海道） U2:大西空（香川）		
担当試合	東海大学付属相模（神奈川） VS 東山（京都）		
試合内容	東山の勝利。		

## 3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

### ●事前研修会

#### 研修会テーマ

「コール・ザ・オヴィアス～3PO メカニクスの実戦から～」

「処置ミスゼロに向けて」2019 鹿児島 IH からの継続的な取り組み

#### ☆研修会テーマ設定の意図・大会運営にあたって 講師：塩谷氏

テーマの背景として、2019 年鹿児島 IH からの継続的な取り組みとして処置ミスゼロを挙げて、昨年の香川 IH でも取り組んだ項目でした。また近年東京五輪での女子日本代表の大活躍、本年は FIBAWC が沖縄にて開催、NBA で日本人プレイヤーの活躍などより一層バスケットに注目が集まりまた、目の肥えた観客、保護者も増加しているのも背景にありました。何より SNS の普及により良いところも悪いところも拡散されてしまう時代だからこそそのテーマと感じました。特に

■明らかなものをコツコツと

■誰にでもわかる・説明できる・納得できるものを

■正しいルールとガイドラインを理解し適用

この3点はまず間違いなく確実に取り組んで遂行しなければいけないものだと感じました。

今、見た目が優先されすぎてプレゼン・メカはいいんだけど判定が…みたいな。  
外見（効・プレゼン）と中身（判定）を合致させることができればよりよいものになる。

☆PGC の大切さ

講師：岩井氏

PGC の目的って？→クルーで共通理解、人柄の把握、チーム情報、目線合わせ…

「様々な内容の共通理解の場」だということ

- ・ガイドラインやメカを確認するだけ
- ・クルーの力量に有っていない（いろいろな意味で）莫大な内容のもの
- ・いろんなことを詰め込みすぎて大切なところがぼやけてしまう…

PGC を設計する時の Point

Mission

バスケットで日本を元気に

Vision

どんなゲームにするかしたいか（方向性）



逆算的に設計

Value

ガイドライン、メカニクス、IOT

- ① ゲームの方向性を示す！（こういう時はこうしよう！）
- ② 1 方向だけでなく双方向を意識
- ③ スカウティングの共有（役割分担）（青のチームお願いします。僕は白をとか）
- ④ クルーの個々の特徴や課題を共有

PGC は長くすることが正しいのではなく方向性をしっかり示したり内容を重視したものの自分の伝えたいことをぼやかさないようにする工夫をしていく必要があると感じました。

◎コール・ザ・オブias

☆コール・ザ・インパクト&ベーシックなプレイコーリング

講師：小田中氏、古畑氏

わかりやすく、的確な判定の積み重ねで魅力のある試合へ…

そのためのツールを自分たちは使いこなせているか？メカ、IOT、ルール…とか。

言葉のみが先行して理解は十分にできているか。

また、知っているから自分自身が出来ているというわけでは決してないこと。←大事

「明らか」→誰が見ても ということをもう一度確認。

イリーガルなものはしっかりコールする、けど瞬間的にはコールせず、しっかり見極めてコールする。

プレーを長く捉えられないと、発見が遅れ検証・分析する時間ができなくなる。そうならないために早くポジションに入ってプレーを長く見据えることを意識する。

コンタクト=全部ファウルではない。コンタクトの事実、責任は？影響はまでを確認し瞬間的にファウルを宣することはないように！

ゲームとして、クルーとして絶対必要、コールザインパクト、こういったコール、特にオブiasなケースをこぼしていくことによってゲームコントロールが失われてしまい、ゲームが難しくなる。

そうならないために、判断する過程に対していかに努力できるか。Basic な判定を積み重ねる！

自分のプライマリーエリア責任を持つこと！公平性・平等もわすれずに。

最大のゲームコントロールはベーシックな判定の積み重ね！

## ■プロテクトシューター

怪我につながるかもしれないからしっかり確認

空中で→プッシュ、足元（着地点で）→ブロッキング

## ☆3PO メカニクスからの分析・CW/GC

講師：平出氏、久米氏

バックコートとフロントコートとではメカのコンセプトが違う。

追従するのはバックコート、フロントコートでは先読みするとか

極力止まって判定する＝大きく見えるから

ファウルを探さない事、明らかなものを吹く

別紙添付書類

## ☆処置ミスゼロを目指して ～オフィシャルズとの連携と役割～ 講師：北沢氏、阿部氏

Referee の役割

\*ルール・ガイドライン＝理解を深めると臨機応変な適切な対応ができる。

\*メカニクス＝円滑に進めるために必要不可欠

\*TO 管理＝TO の役割を理解（アイコンタクトやコミュニケーション）

\*プレゲーム・ポストゲーム＝個ではなくクルーとして臨むため準備し、改善点を明確にする

\*プレイヤー、コーチとの協力＝バスケットに関わる仲間ということを理解

基本の徹底が1番の処置ミスの防止策！

処置ミス、処置ミスといえどいろんな種類がありますが、大きく2つに分類できます。

「防ぐことができるもの」 ルールの適用ミス、メカ崩れ、TO に任せっきり

「防ぐことが難しいもの」 機材トラブル、メンタルやノイズ

しかし、ルール、クルー、TO この3つを使えばミスなく、トラブルが起きても適切に対応できる。

正しい判定を積み重ね→プレーに集中させる環境を作って→全力を尽くしてゲームを無事に終わらせる ことが、Officials の役割！

## ●ゲームを通して感じたこと学んだこと

今回の北海道IHで強く感じたことがあります。自分をしっかり持つ ということです。

一緒に吹いたクルー、担当させて頂いたゲームそれぞれ皆異なる環境、思考、があり、自分が吹いたものに対して予想外のリアクション、予想通りのリアクション多々ありました。

自分をしっかり持つ為には、ルールの理解、メカの理解、バスケットへの理解。が必要だと思いました。

ですが、自分が自分がではなく、「誰のために審判をしているのか」は勘違いせず今後の活動をしていきます。

## ●その他

この度は、派遣に際してご理解とご支援頂いた香川県バスケットボール協会の皆様心より感謝申し上げます。

今回の経験、知り得た知識を県内に還元できるよう活動に励んで参りますので

引き続きご指導のほどよろしくお願い致します。